

令和8年度 東京純心大学 英語解答例 一般1期A日程 (20260201)

合計 100点

第1問 各1点×18問=18点

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
①	①	④	②	②	④	①	③	②	④

11	12	13	14	15	16	17	18
④	②	②	①	④	①	③	④

第2問 各2点×4問=8点

19	20	21	22
③	②	④	①

第3問 各2点×4問=8点(23, 24 完全解で4点、25, 26 完全解で4点)

23	24	25	26
②	③	③	①

第4問 27-34は各1点×8問=8点、35-39は各2点×5問=10点、
40-41は各3点×2問=6点

27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
②	④	②	④	③	④	③	③	①	②

37	38	39	40	41
④	①	①	②	④

第5問 各4点×8問=32点

42	43	44	45	46	47	48	49
④	④	②	④	④	②	①	③

第6問 10点

神戸大学の言語学の教授が公立高校の生徒102人に議論型エッセイを書かせて、2人の専門家が評価すると、複雑な文法や語彙を使った英文よりも議論そのものの質が高い英文の方が高く評価された。評価を3段階に分けて言語形式に基づく複雑性と意味的複雑性とを分析すると、文法的にはより単純だが複合名詞を使って意味的複雑性を表現した英文の評価が高く、深い議論が可能であることが分かり、「良い英文」の特徴を示唆した。(196字)